

僕の「デス・バイ・ハンギング」

キノコ雲の下に

数知れぬ悲鳴と呻き声とを

埋葬して迎えた戦後

戦争という罪から逃れられずにいる人間が

祈るような気持で作り上げた理想の実験が

砂上の楼閣であつたというのか

「平和憲法」という名の理想が

戦争犯罪人よりも卑屈に色褪せ

これまで産み出してきた

幾多の知性と力に満ちた戦後世代を

絶望の潮流と心の汚濁の赤潮へと

追いやつてしまう

暴力装置のみが守護神とされ

「敵」を殺すことで「一つ」になろうとする

これではあれだけの犠牲と60年という時間をかけて

歴史に唾をつけて消し

戦後後世代の人間たちを圧殺し

戦後後世代の人間たちの視力を奪うことになる

国家という無反省マシンが

またもや金属音とききな臭い悪臭を漂わせ始めたようだ

僕は戦後後世代と安保世代に生を受け

二つの世代と共に縛り首になろうとしている

(2006.6.18)